千葉県芝山町

・地域おこし協力隊の募集目的を受入地域内で検討・共有。目的実現に向けて求められる人物像を明確化し、地域おこし協力隊の募集を開始。

募集企画の作成・魅力度の向上

派遣前（課題）

募集プロセスの明確化が課題と認識

- 芝山町は成田国際空港に接する町であり、「殿塚古墳・姫塚古墳出土埴輪」をはじめ古墳が多いことでも知られ、数多くの遺物が発掘された歴史の町である。
- 近隣自治体では、芝山町に先駆け、外部人材（地域おこし協力隊）を募集・採用。観光まちづくりの分野を中心に成果を挙げていたこともあり、芝山町も地域おこし協力隊制度の活用を通じた、観光地域づくりの推進と町のプロモーションを目指した。
- 募集から決定までの進め方（効果的な募集方法、スケジュール）、住居の調整等を「目の前の現実的な」課題として捉え、設定。

アドバイザーからの助言

地域おこし協力隊を導入する目的の共有・明確化が重要

- 地域おこし協力隊制度は、地域づくりに向けて活用する手段の一つ。
- 地域おこし協力隊の受け入れにあたり重要なポイントである、行政だけではなく、協力隊員の受入団体等における協力隊の導入目的の明確化について解説。
- 地域づくりの段階性を理解することも重要であり、初動期にまず何をするべきかのポイントについて助言。
- 上記の段階性に留意した地域おこし協力隊採用後の運用検討が求められる。協力隊員と地域との関係性が醸成されないままのイベント開催は効果が期待できない。

助言による効果

地域の特性を踏まえた、地域おこし協力隊のミッションを設定

- 町の特性およびその強みをブラッシュアップすることができ、協力隊の導入目的として成田国際空港に隣接するという特徴をいかした「海外に一番近い町づくり」と位置づけた。
- プロモーションや観光地域づくりに係る関心、知見・経験を有する「しばやまマーケティングプロデューサー」として、令和6年5月より地域おこし協力隊の募集を開始。想定を上回る反応があった。

【担当者からの声】

- 助言を通じて求めるべき人材像に加え、受入側が目指す地域の姿が明確になった。
- 選考過程でも求めるスキルだけではなく、どのような人物と共に地域をつくりたいかという受入側の想い（理想）も大事にしたことで、地域が求める人材の確保が可能になりつつある。

長崎県諫早市

・地域おこし協力隊の定着を見据え、制度運用の手引きと参考書を作成。

サポート体制強化

派遣前（課題）

「卒業」後のサポート方法やノウハウの定着が課題

- 6名の地域おこし協力隊が活動、うち1名の任期満了が近づいていた（令和5年度）。
- 諫早市として初めて地域おこし協力隊の「卒業」を迎えるにあたり、任期後の定着に向けたサポート方法やノウハウの定着を課題として設定。具体的には地域おこし協力隊事業の運用に係る手引き等の作成を想定。

アドバイザーからの助言

段階ごとの戦略、アクションを整理することが重要

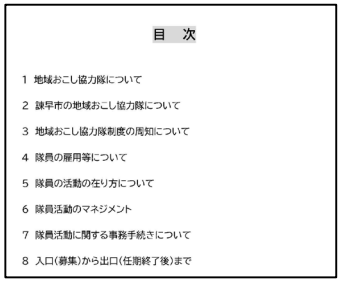
- 制度設計→募集・採用→活動支援→任期満了後を「一連のプロセス」として捉え個々の戦略を組み立てていくという視点について解説。
- 行政（受入）側が「出口戦略」を示すことも重要。卒業後、地域外へ転出しても、地域との関係性をいかに保つかという視点についても助言。

助言による効果

段階に応じた制度運用に係る手引き、参考書を作成

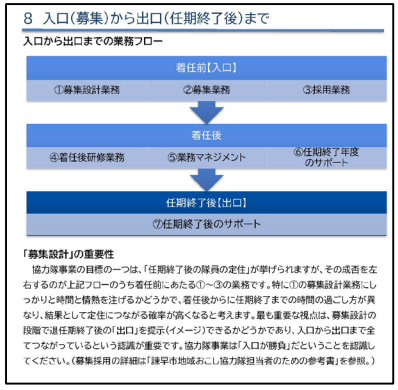
- 「諫早市地域おこし協力隊制度運用の手引き（以下、手引き）」、「諫早市地域おこし協力隊担当者のための参考書（以下、参考書）」を作成。
- 手引きは「行政担当者」「隊員」「地域住民・地域団体」の３者にとって重要な事項を記載。参考書は行政担当者が実務上知っておくべきノウハウ等に着目して整理。

【作成した手引き・参考書（抜粋）】



目　次

1 地域おこし協力隊について
2 諫早市の地域おこし協力隊について
3 地域おこし協力隊制度の周知について
4 隊員の雇用等について
5 隊員の活動の在り方について
6 隊員活動のマネジメント
7 隊員活動に関する事務手続きについて
8 入口(募集)から出口(任期終了後)まで



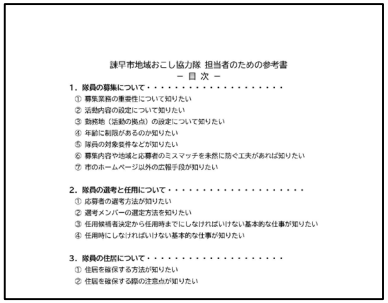
8 入口(募集)から出口(任期終了後)まで

入口から出口までの業務フロー

着任前【入口】
①募集設計業務　②募集業務　③採用業務
↓
着任後
④着任後研修業務　⑤業務マネジメント　⑥任期終了年度のサポート
↓
任期終了後【出口】
⑦任期終了後のサポート

「募集設計」の重要性

協力隊事業の目標の一つは、「任期終了後の隊員の定住」が挙げられますが、その成否を左右するのが上記フローのうち着任前にあたる①～③の業務です。特に①の募集設計業務にしっかりと時間と情熱を注げるかどうかで、着任後からに任期終了までの時間の過ごし方が異なり、結果として定住につながる確率が高くなると考えます。最も重要な視点は、募集設計の段階で退任期終了後の「出口」を提示(イメージ)できるかどうかであり、入口から出口まで全てつながっているという認識が重要です。協力隊事業は「入口が勝負」だということを認識してください。(募集採用の詳細は「諫早市地域おこし協力隊担当者のための参考書」を参照。)



諫早市地域おこし協力隊 担当者のための参考書

－目次－

1. 隊員の募集について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
① 募集業務の重要性について知りたい
② 活動内容の設定について知りたい
③ 勤務地（活動の拠点）の設定について知りたい
④ 年齢に制限があるのか知りたい
⑤ 隊員の対象要件などが知りたい
⑥ 募集内容や地域と応募者のミスマッチを未然に防ぐ工夫があれば知りたい
⑦ 市のホームページ以外の広報手段が知りたい

2. 隊員の選考と任用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
① 応募者の選考方法が知りたい
② 選考メンバーの選定方法を知りたい
③ 任用候補者決定から任用時までにしなければいけない基本的な仕事が知りたい
④ 任用時にしなければいけない基本的な仕事が知りたい

3. 隊員の住居について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
① 住居を確保する方法が知りたい
② 住居を確保する際の注意点が知りたい

【担当者からの声】

- ◆ 助言を通じて、他の自治体での取組状況を学ぶとともに、「一連のプロセス」として捉える重要性が理解でき、諫早市独自の制度運用に係る言語化を図る上で参考になった。
- ◆ 作成した手引き・参考書は「プロトタイプ（試作段階）」であり、制度運用と同時並行で加筆修正を行い、実際の制度運用の定期的な見直しを行う予定である。

北海道安平町

・応募者の「目にとまる」効果的な広報の考え方を習得、目標を上回る応募者数を確保

情報発信の強化

派遣前（課題）

アドバイザーからの助言

助言による効果

募集者目線で発信

- 地域おこし協力隊の募集を開始（H26）。10名の隊員が活動中（R5）。
- 観光や教育等、魅力の増進に係るテーマは応募が集まりやすい一方、地域住民の困りごとの解決（介護福祉、公共交通等）に係るテーマの募集に苦戦。
- 募集テーマに関わらず、応募者にとって魅力的な活動のつくり方・見せ方を習得することを課題として設定。

応募者目線の発信が重要

- 募集者が「伝えたい」ことではなく、応募者に「伝わる」ことを重視した募集情報の発信に係る考え方、方向性について助言。
- 地域おこし協力隊に関心のある者へリーチしやすい媒体「JOIN（（一社）移住・交流促進機構）」のホームページ利用を例に、発信時の工夫点を確認。

応募者数の大幅増を実現

- 例年以上に多くのテーマ・人数を募集した結果、募集に苦戦するテーマを含め、全てのテーマ（11の応募区分を設定）で1名以上の応募者確保が実現（令和5年度）。うち3区分は募集枠を超える応募者を確保。
- 応募者の能力・意欲といった面でも高水準の結果を得られた。

【助言時の様子】

【担当者からの声】

- 「見せ方」の重要性は理解していたが、アドバイザーに具体的な例を示していただきながら、実践的な方法を学ぶことができた点が大きかった。特に、ページを遷移せずとも見ることができるボリュームで募集に係るストーリーを示すことの重要性を認識した。
- 「JOIN」のページは以前から活用していたが、上記のような工夫を施すことで、他の媒体と比べても効果的かつ効率的な募集に資する媒体であることを実感した。